

競 技 注 意 事 項

1 競技について

- (1) 本競技会は、2026 度公益財団法人日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。
- (2) トラックレースにおける不正スタートについて、TR. 16. 8 による。
- (3) トラックレースで同着が出た場合、1000 分の 1 秒まで拡大し着差を確認する。
- (4) 競技者は 9mm 以下のオールウェザー用スパイクピンを使用すること。ただし、走高跳とやり投は 12mm までの使用を認める。
- (5) 競技用具は、競技場備えつけのものを使用するが、棒高跳用ポールは各校持参のものを使用する。投てき用具については各校持参のものを検査したうえで使用を許可する（個人が持ち込める投てき物は 2 個までとし、当該競技実施日の検査で合格したものに限り）。
投てき用具の検査時間は各日とも 8 時 00 分から 9 時 00 分までとする。検査場所は競技場正面玄関前に設ける。
- (6) トラック競技の A、B 決勝進出について、予選記録上位 8 名が A 決勝に進出し、9 位から 16 位までが B 決勝進出となる。8 番目の同記録者が 2 名いた場合は 9 名で A 決勝を行うが、3 名以上いた場合は抽選により 2 名を選び 9 名で行う。16 番目の同記録も同様に行うが、A 決勝が 9 名で行われる場合は B 決勝は 7 名で行う。当該競技の入賞者は A 決勝の上位 8 名とする。
- (7) 競技で使用する靴底の厚さは競技規則 TR5. 2 による。ただし、サークルから行われる投てき種目（砲丸投、円盤投、ハンマー投）を除く。
- (8) アスリートビブスは、高体連配付のものをそのままの形で胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。
3000m、5000m、5000m 競歩に出場する競技者は、招集所で配付するレーンナンバー標識を胸部につけ競技すること。
トラック競技出場者は全種目写真判定用の腰ナンバー標識を右腰やや後方につけること。腰ナンバー標識は高体連推奨のもの（黄色）をそのままの大きさで使用するが、横 18cm×縦 12cm より小さくないものを使用すること。リレー競技においては第 4 走者のみ腰ナンバー標識をつけること。腰ナンバー標識は 1～16 までは各学校で準備し、17 以降は招集所で配付のものを使用する。
- (9) リレー種目に出場するチームはオーダー用紙に必要事項を記入し、第 1 組の招集完了時刻の 1 時間前までに招集所の競技者係に 1 部提出すること。
- (10) 三段跳の踏切板は砂場まで男子は 10m、女子は 8m とする。
- (11) 棒高跳に出場する競技者は、支柱移動について現地の競技役員に申告すること。
- (12) 棒高跳の練習は、ゴムバーを使用して行う。
- (13) フィールド競技において多種目同時出場の手が試技を行う順序の際に不在で試技時間が過ぎた場合はその試技はパス扱いになる。（走高跳・棒高跳では事前に申告すれば無効試技扱いとすることができる）
- (14) フィールド競技に出場の競技者は、競技場所から離れて画像を撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしても良い。その際に各自で用意した紐や袋等を使用することは認めるが、受け渡しの際には、事故等が発生しないよう十分に留意し、確認後は直ちに戻すこと。その際当該審判員に申し出ること。（他者との通信は不可）。

2 招集について

- (1) トラック種目の招集は 100m スタート地点脇（器具庫 1 内）の招集所で行う。フィールド種目の招集は各競技場所で行う。招集開始・完了時刻は競技順序に記載のとおりである。
- (2) 混成競技の招集についても上記のとおりであるが、第 1 日目、第 2 日目ともに最初の種目は招集所で行う。
- (3) 招集は必ず競技者本人が点呼を受けること。ただし、他の種目に出場している場合にのみ当該校の代理人による点呼を認める。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技種目への出場を棄権したものと処理する。
- (4) 2 種目以上を同時に兼ねて出場する競技者は、トラック種目が先に開始される場合は、トラック

競技終了後ただちにフィールド種目の競技場所に移動し、担当競技役員に申し出ること。また、フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前に当該種目の競技役員にその旨を申し出ること。

3 練習場について

- (1) 練習は競技場周辺のアスファルト部分（道路上は禁止）及び投てき場を使用すること。投てき種目の練習はターン練習及び助走練習のみとする。（投てき物の使用は禁止とする）
- (2) 競技に支障のない場合に本競技場バックストレートの使用を認める。
- (3) 投てき練習は招集完了後に競技場所で行う練習のみとする。投てき練習は競技役員の指示に従い安全に留意して行うこと。

4 跳躍競技のバーの上げ方は下記のとおりとする。ただし、第1位が同成績の場合による順位決定や県選抜大会出場決定戦の場合は走高跳2cm、棒高跳5cmの上げ下げとする。

（天候その他の状況により変更する場合がある。）

走 高 跳	男子	1m45 練習	1m50－（5cm 刻み）－1m90－以降 3cm 刻み
	女子	1m20 練習	1m25－（5cm 刻み）－1m40－以降 3cm 刻み
混成競技 走 高 跳	男子	1m35 練習	1m40－（5cm 刻み）
	女子	1m15 練習	1m20－（5cm 刻み）
棒 高 跳	男子	三段階程度を現地で設定する	2m10－2m30－2m50 以降 10 cm刻み
	女子	任意	1m80－2m00－以降10cm刻み

5 競歩種目における制限時間とフィールド競技の計測ラインについて

- (1) 競歩種目において40分の制限時間を設ける。ただし、県選抜大会出場枠決定までは競技を継続する。
- (2) 男子走幅跳で5m20cmの計測ラインを設ける。（天候その他の状況により変更の場合がある。）

6 県選抜大会出場枠

種 目	100m～5000m (女子3000mを除く)	ハードル、障害物、女子3000m リレー	競歩	フィールド	混成
人数	20	16	13	13	8

県選抜大会出場枠が満たされなかった場合は同成績の競技者から抽選により出場者を決定する。

7 救護体制について

大会期間中のけがについては、本競技場医務室にて医務員による応急手当のみ行う。その後の処置については各校の引率者の責任において対処すること。内科的症状については各校で対処すること。

8 その他

- (1) 短距離種目では競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (2) ホームストレート前の選手の通行は禁止とする。選手はフィニッシュ後にバックストレートを通行するか、フィニッシュ地点脇のゲートから競技場外に出てスタート地点に戻り、個人の荷物を取り速やかに退場すること。
- (3) タブレットやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場所で使用・所持する行為は失格の対象となることがある。（TR6.3.2）
- (4) 競技結果の掲示は行わない。競技順序、招集時刻、出場レーン、試技順、競技結果、次のラウンドの番組編成などはアスリートランキングで確認すること。